

氏名	本 郷 基 弘
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 9 6 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和38年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系産科婦人科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	妊 娠 貧 血 の 研 究
論 文 審 査 委 員	教授 橋 本 清 教授 平 木 潔 教授 水 原 舜 爾

学 位 論 文 内 容 要 旨

第 1 編 妊娠貧血に関する研究（末梢血の検索を中心として）

妊娠貧血の実態を明らかにするために1年間に亘って妊産婦延約3,000例について検血し、妊娠貧血とは妊娠末期3ヶ月に最も著明となり非妊時の80～85%迄低下する正球性軽度低色素性貧血であることを知った。最高発現時に妊娠貧血は40～50%の妊婦にみられ、季節的には夏、秋に多い。妊娠6ヶ月から分娩まで二価有機鉄製剤を連用したところ、妊娠貧血は完全に治癒し、鉄反応性であることが分った。更に、血清鉄が妊娠末期に低下することからも本貧血は鉄欠乏性貧血の一種と考えるべきであり、従来の生理的水血症のみで解釈することには首肯し難い。臨床的には妊娠中毒症と密接な関係があり、貧血妊婦の中毒症合併率は高く、中毒症妊婦の貧血は高度である。分娩時出血量は貧血妊婦に大であり、弛緩性出血も高頻度にみられる。新生児側への影響は分娩直後までには全くなく、臍帯血液性状も貧血の影響はない。分娩期に血液濃縮が起り一見貧血はないようにみえるが、産褥1日目には分娩時出血の影響もあって血液値は全経過中最低値を示す。産褥1ヶ月目には無処置でも殆んど正常値に恢復するが、軽度の小球性低色素性の傾向を残す。これに反して妊娠後半に鉄剤投与したものは正常値を保つことが出来る。

第 2 編 妊娠貧血に於ける Sideroblast に関する研究

——骨髓細胞浮遊液廻転培養法を応用して——

妊娠貧血の本体を更に明らかにするため、骨髓赤芽球内の鉄代謝を sideroblast 出現率で検索した。妊娠初期に12%出現するが末期には全く出現しないので骨髓細胞浮遊液廻転培養法を応用して動的に観察を進めた。Medium 中の血清を妊婦と健康人の二種類、塩類、溶液に鉄を添加するか否かで二種類作り、各組合せから次のことが分った。sideroblast 出現に関しては骨髓機能自体には妊娠初期、末期の差はないが、血清には初期は健康人と差がなく、末期には健康人との間に鉄添加により代償しう程度の差が認められる。即ち、末期骨髓の sideroblast 出現率が0である理由は血清から赤芽球に摂取される鉄は一時貯溜して sideroblast となる余裕なく直ちに血色素合成に利用されねばならない程限定されている為であり、妊娠末期に著明となる妊娠貧血の本体はこの実験からも鉄欠乏性貧血と云うことが出来る。

備考 第1編 日本産科婦人科学会雑誌 第15巻 1号(昭和38年1月1日発行)に掲載の予定

第2編 日本産科婦人科学会雑誌 第15巻 5号(昭和38年5月1日発行)に掲載の予定

論文審査の結果の要旨

本郷基弘提出の「Electrocardiographic and Polarographic Observations in the Canine Fetus.」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

妊娠末期の妊婦の多くにみられる軽度の貧血は従来生理的水血症によるものとして殆んど顧みられなかった。著者は岡山附近在住の妊婦について末梢血の精密な血液学的詮索を延3,000例に実施してその本態を追究した。

妊娠貧血は妊娠5ヶ月頃に始まり経3ヶ月で最高となる広義の貧血は妊婦の40—50%に狭義のものは20—30%にみられる。分娩時には一時血液値が上昇するが産褥第1日には急激に低下し産褥5日目頃より恢復し始め約1ヶ月で非妊時の値に還る。妊娠貧血は経産回数を重ねるにつれて増強される。妊娠6ヶ月頃より有機鉄剤を長時間連用させると妊娠貧血は予防しうる。妊娠貧血は新生児期には特別の影響は及ぼさない。

斯様な諸点から妊娠貧血は軽度の鉄欠乏性貧血であり、これを生理的とみなすことは誤りであると結論した。妊娠時の骨髓細胞赤芽球内の Sideroblast 出現率を追及し臨床所見の裏付としている。本邦に於ける妊娠貧血研究の最初のまとまった研究である。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。